

「河和田に住もう！！」
農業と伝統文化の魅力を最大限に伝えよう
～新たなベッドタウンモデルの構築～



鯖江市 B 班 チーム：さばえっ子

政治経済学部 3 年 丸 宗揮
情報コミュニケーション学部 3 年 岡野 琴音
政治経済学部 2 年 鈴木 優吾
法学部 1 年 村永 佳央理

<目次>

1. 鯖江市の地区、河和田の現状・

私たちの目線で見えた河和田の課題・魅力

2. 提案・概略

3. 河和田の魅力詳細と企画内容

(a) 兼業農家・家庭菜園

(b) 漆器

(c) 郷土料理

(d) 河和田アートキャンプ

(e) その他の魅力

4. 発信の仕方

5. 結論・終わりに

6. 参考資料

1. 鯖江市の地区、河和田の現状・

私たちの目線を見た河和田の課題・魅力

福井県鯖江市河和田地区。人口 4700 人の、自然豊かで古くから人々が住み続けてきた地域。私たちの班は、今回、この河和田地区を中心にヒアリング調査を行った。学生派遣プログラムに応募するまでは、河和田地区の「か」の字も知らなかった私たち。ヒアリング調査では、鯖江市役所商工政策課の青山さん、軽喫茶「椀椀」を運営していらっしゃる、うるしの里いきいき協議会 河和田フレッシュ市の杉本さん、大辻さん、東陽中学校の美術部の学生さん 4 名、鯖江市老人クラブ連合会の 4 名の方々、OC 課の吉村さん、農家の小谷さん、地元スーパー A コープ東鯖江店の金子さん、熟議で情報やご意見をいただいた鯖江市役所地方創生戦略室の齋藤さん、河和田住民の真保さん、山田さん、移住者の安久津さん、JK 課のまやさん、JK 課 OG のみどりんさんら、総勢 20 名の方々にお話をお聞きすることが出来た。

取材を通して実感したこと、それは、河和田地区が、魅力ある街であることである。

まず、綺麗で豊富な水によって、自然が豊かであること。町は見渡す限り山があり、田んぼがある。家庭菜園をおこなうご家庭が多い上に、桑の葉茶や吉川ナス、菜花米など、地元の特産品が地元スーパーに出回るほど多く生産・出荷されている。また、古くから伝わる伝統産業、漆器が今もなお、昔のまま継承されていること。まだまだ挙げられる。河和田地区の風習によって知られていた郷土料理が今もなお作られていること。河和田に魅力を感じた若者が移り住み、精力的に町おこしをおこなっていること。…そしてなにより、とても元気で明るく、アットホームで、笑顔輝く河和田地区の住民の方々がいいらっしゃるということ。

河和田地区に住む方々からしてみれば、大したことではないかもしれないし、日常生活の一部であって、魅力を感じないかもしれない。しかし、よそものである都会に住む私たちから見ると、河和田地区は、都会にはない、とても魅力ある街にうつるのである。

だがしかし、マイナス面も見られる。伝統産業である漆器づくりや農家が多い一方、その他の仕事が見受けられず、働く場が、河和田地区内では少ないということ。また、都心に比べ、インフラが整備されておらず、その上、交通の便も悪いことが重なり、利便さを求める人々が外へ出ていってしまうため、人口減少が進んでしまっている地区であるということ。

これらを踏まえた上で、私たちは考えた。河和田地区がこんなに魅力ある地区なのだから、課題はあるとはいえ、多くの人々、特に、若年層の人々に住んでもらいたいと。

そのように考えていた私たち。ふと、あることに気づいた。それは、「河和田地区は、ベッドタウンになれるのではないかと」。河和田の周りの地域には、働く場が存在し、栄えている地域がいくつか点在している。例えば、福井市。河和田から車で 30 分であり、意外

とアクセスがいいということがわかる。都会では、通勤通学ラッシュに、満員電車でもみくちゃに押しつぶされ、揺られて、1時間しんどい思いをしながら出勤するサラリーマンが多くを占める。だが、それに比べると、河和田に住めば、快適な車内で30分運転をして、疲労を増幅させるような思いをせずに、元気いっぱいフレッシュな気分で出社できる。また、家庭菜園や、漆器づくり、河和田アートキャンプの若者らとの交流など、休日に仕事から解放されてリフレッシュできる場や機会がそろっている。

2. 提案・概略

そこで私たちは、次のような案を提案する。「生活圏としての魅力を発見し、河和田地区を新たなベッドタウンモデルとして構築する」案である。

ターゲット層は、Iターン、Jターン移住者。なぜUターン移住者を含まないかという点、取材を通し、河和田地区に生まれた時から住む若者は、もともと親が漆器職人やメガネ職人、農家であった人が多く、親から跡を継ぐことを勧められない現状があり、河和田地区に対してプラスの印象を持ち、都会に出てから再び戻ってくる確率が低いことを見込んだ。よって、Uターン移住者は、今回ターゲット層に含まないことにした。

こうして提案とターゲット層を定めたのはいいものの、河和田地区のような、自然溢れ、人・モノの魅力も溢れ、しかし生活インフラが整わず、利便性が低いがために人口減少が進む地域は全国を見渡し、いくつもある。では、他の地域とどのように差別化を図るか。

今回の取材を通して私たちが体感した、河和田地区独特の魅力、住むならやっぱり河和田地区！と思わせるような魅力を全面的に売りにすることが重要であると考えた。

以下では、実際に私たちの班が取材を通して感じた、他の地域にはない、河和田地区の今ある魅力について、5点挙げていく。

3. 河和田の魅力

その5つの魅力とは、1点目は外にはたらきにくい傍らで行う家庭菜園、もしくは兼業農家。2点目は歴史的に長く継承される漆器技術。3点目は、地元で受け継がれる、報恩講さん料理などの伝統料理。4点目は、河和田アートキャンプをはじめとした学生との活発な交流。5点目は地元住民の生活を支える継体天皇の水源や温泉である。

以上の魅力は都市部の喧騒から離れた地域で休日を落ち着いて楽しめることを押し出したものであり、移住者を勧誘するポイントとして発信していくべきであると考えた。

(a) 兼業農家・家庭菜園

始めに、1点目の家庭菜園や兼業農家について何が魅力であるのかを説明する。私たちの班は家庭菜園や兼業農家を営んでいる方に取材をし、その方々が農作物を出品しているスーパーや朝市、JAについてのお話を取材の過程でうかがった。その取材の中で、家庭菜園や兼業農家を営む方々は生き生きとしており、その生活に充実感を感じている様子であった。そこで私たちの班は、家庭菜園や兼業農家を営むことによって得られるその充実感や楽しみを河和田地区の魅力の一つにしていくべきだと考える。平日は市外へ出勤し、休日の余暇には自然の中で農業を楽しむということは、それを望む移住者には大きな魅力になり、移住促進の推進力になる。

<右図：地域のスーパーに
置かれる地産の作物>



(b) 漆器

次に、2点目の漆器技術の魅力の活かし方について説明する。本来、河和田地区の漆器は日常生活に根差した食器として自然に使われており、庶民にとって身近なものであった。しかし現在は、日常的に使用される機会が少なくなってしまう、需要がなくなりつつある。その結果、漆器職人は減少し、貴重な漆器技術は継承されることが困難になってしまっている。

そこで、漆器技術を安定的に河和田の魅力の一つとして継承していくために、市民が漆器を日常生活で使用していく運動を行うことを提案する。つまり、「漆器を食器に」をコンセプトとした運動を展開していくべきである。これによって漆器の需要を喚起して、漆器をより身近なものにしていくことに繋がれると考える。

また、漆器職人が身近にいるという環境が、漆器職人の人数を増加させていく基盤を作

っていけることにも繋げられると考える。それだけでなく、漆器職人による漆器制作体験が、移住者が余暇を楽しむ手段となり、河和田地区の魅力に繋がるとも考える。

取材の中で、漆器職人の方は漆器技術を学んでみたい人を喜んで迎えるとおっしゃっていた。漆器職人の方との交流は休日の楽しみとして発信できる大きな魅力になるといえる。それを移住理由の一つへと押し上げていくべきである。

そして、今回フィールドワークの過程でうるしの里会館を見学した際に思いついたアイデアなのだが、空き家を利用して、漆をテーマとした移住者のためのシェアハウスを作ることにも提案する。漆器をテーマにするとは、例えば漆の家具を使ったシェアハウスを作ることである。これは、移住する若者にとっては、オシャレで魅力的にうつるのではないだろうか。この建設には、河和田アートキャンプをはじめとした学生団体と協力し、蔵バーなどのデザインの経験を生かしていくべきだと考える。このようなシェアハウスは河和田地区の魅力を伝える拠点にもなりうると思う。また、次ページには私たちが参考としたうるし細工利用のモデルルームの写真を掲載した。(うるしの里内に展示されている「漆黒庵」)

<下図：うるしの里内部に展示されていた「漆黒庵」>



(c) 郷土料理

次に、3点目である、河和田独自の文化・郷土料理の魅力について説明する。河和田地区にある、うるしの里会館にある軽喫茶「椀椀」での聞き取り調査で、その地域には「ほ

んこさん料理」といわれて親しまれている料理があるとわかった。「ほんこさん料理」とは浄土真宗の開祖親鸞の命日にある仏事「報恩講」の法会の後に出される精進料理である。福井県では浄土真宗が盛んであり、鯖江市も例外ではない。この料理に関しては、昔からの料理なので、体に害のあるものが含まれておらず、安心して食べられる。話を聞いた河和田地区は伝統料理を今もなお受け継ぐ文化を大切にする土地であり、また、昔からその地域で生活の知恵を絞って生み出された郷土の料理が今も色濃く残る地区である。軽喫茶「椀椀」はその郷土料理と漆器を繋げて提供する場となっている。このように郷土料理があるところも河和田地区の魅力の一つである。



<上図：郷土料理である「ほんこさん料理」>

その他にも、里芋を餅の代わりに使ったあんころ芋などもあった。(表紙参照)

(d) 河和田アートキャンプ

次に、4点目の、河和田でしか味わえないともいえる、学生との活発な交流についての魅力を説明する。それは、河和田アートキャンプとよばれる、学生主体で地域おこし活動をおこなう団体との交流のことである。河和田アートキャンプとは、平成16年7月18日の福井豪雨の際、河和田地区のボランティアに京都精華大学の学生が参加したことに始まる芸術活動である。河和田地区を活動の舞台に、学生たちが主体となり取り組みを続けている。活動に参加したのがきっかけで、学生が鯖江市に移住した例もある。移住する場所というと、若者がいないイメージだが、ここには若者とのつながりがある。将来的には

移住者とアートキャンプの学生と協働で活動をすることもあり得る。

<下図：河和田アートキャンプ拠点>



(e) その他の魅力

最後に、5点目の魅力として、地元住民の生活を支える継体天皇の水源や温泉を説明する。継体天皇の水源とは、「桃源清水」と呼ばれる。桃源清水は昔、継体天皇が水源を求めて訪れたと伝わる。この谷の清水は、古くから飲料水として利用されてきた。平成20年「ふくいのおいしい水」に認定された。おいしい水なら全国どこでもあるが、継体天皇の水源となるとここだけではないだろうか。また、河和田では水源があればどこでもホテルを見ることができる。水がきれいなところも魅力の一つである。

温泉についての魅力を以下で挙げると、ラポーゼ河和田は全国でも珍しい、美人の湯と長寿の湯の混合泉で地域の住民を中心に親しまれている。河和田地区に住むのであれば、いつでも利用できるのではないか。

以上の5点から、私たちの班は、河和田地区を「はたらく場所」ではなく、ベッドタウンとして機能する「住む場所」にするべきだと考える。河和田地区を人々に移住先として選択してもらう地域にするためには、人々を引き付ける魅力が必要である。だが、その河和田地区には既に5つの魅力があり、特別に新たに多く創出していく必要はない。今ある

魅力を活かし、その情報を発信していくべきである。

4. 発信の仕方

上記までの素晴らしい河和田独自の魅力は私たちも感じた通り外部の人間にはほとんど伝わる状況にないことが推測される。そのような状況下で私たちはいくつかの抜本的な広報活動の方法でその魅力を伝えていく必要があると感じた。

その一つ目として、河和田での生活の魅力を写真に収め、それを“ほぼ文書なし”でフリーペーパーとしてまとめる、写真集のような雑誌作りを提案したい。現在のフリーペーパーやチラシでは「その地域の魅力を伝えたい」というような強い意志から綺麗な写真に加えて、その地域に関する情報を綿密に記載しているものが多く、他地域のものの中に埋もれてしまうような状況が起こっている。そのような中において、本来ではお金を支払って購入する原風景や人物の写真集のようなパンフレットを作成し、読者に「この美しい写真のロケ地はどこだろう」と興味を持たせることをコンセプトとする。これによって他のパンフレットとの差別化を図り、読者を得られることが考えられる。また、当ロケ地を気になった読者のために写真の中には少しずつその地域と分かるような文字やヒントを映しこむ。これによって読者に当地域の検索をさせて宣伝効果を得ることとする。また、フリーペーパーには協賛となる企業の宣伝ページが掲載されることが常であるが、できる限り写真の部分と区画を分けての掲載としたい。また可能であれば QR コードでのサイトにリンクさせる宣伝や AR マーカーを駆使した動画情報による宣伝等の導入も視野にいれられれば先進的なものとなりうるということが考えられる。更に協賛会社の風景を現地の産業の風景として写真に収めることも一つの手であろうか。まず以上のような発信方法を提案する。

また次に二つ目として上記の5つの魅力と河和田の現状を WEB の中でも閲覧者数の多いと考えられるサイトに投稿していくことを挙げる。ありきたりのような方法ではあるが、その情報量が多いほど移住・定住者には「歓迎されている」と感じられ、関心を持つものであると考える。またそれに加えて私たちは河和田の情報をフリー百科事典であるウィキペディアに投稿することを提案したい。このサイトはログインさえしていれば誰でも編集可能であり、セキュリティが甘いと考えられることから通常は正確な情報が得られにくいとされ敬遠されがちではあるが、その閲覧者数は膨大な人数を記録している。このことから簡単な情報から試験的にウィキペディアのような百科事典サイト等の閲覧者数の多いページへその魅力を掲載して伝えていくことは効果的であると推測する。具体的には鯖江市のページのリンクである河和田村のページに「河和田アートキャンプ」や「うるしの里会館」などの情報を掲載するであるとか鯖江市のページに「漆器」や「郷土料理」の項目を

作る等様々あると考えられる。その他にも Twitter、Facebook、HP 等においても中心街以外の情報の強化は重要になるであろうと考える。また、実際にそれらを行うのは「地域おこし協力隊」や市の「高年大学」に参加している住民等、さまざま考えられる。

更に三つ目として、ゆるキャラの活用などが挙げられる。既に河和田地区ではうるしの里協議会に「一寸くん (ちよっとくん)」と呼ばれるキャラクターが存在する。このキャラクターを鯖江市における漆の文化の象徴として既存の「漆祭り」などの地域内イベントや全国圏の人が集まる都市圏のイベントへと出場させ、鯖江市全体のマスコットキャラクターである「さばにゃん」や人形浄瑠璃の文化を伝える「ちかもんくん」らとともに鯖江の文化の宣伝をなお一層強化する存在となればと考える。

その他にも実際に頂いて大変美味しかった「ほんこさん料理」などの古くからの郷土料理にあふれる鯖江市・河和田地区においては農林水産省が「日本食・食文化の世界的普及プロジェクトのうち和食・郷土料理情報発信事業」の一環として行う「全国子ども郷土料理サミット」への地域学生の参加から、郷土料理の豊かな地域でもあることを宣伝し、文化のあふれる暮らしが豊かなベッドタウンであることのイメージをつけていくことも発信の仕方として考えられるかと思う。また新規イベントとして“漆”がコンセプトとなるファッションショーを“メガネ”をコンセプトとして成功を収めたものと同様に行うこともイメージ付けとしては良いように考える。

5. 終わりに

今回、福井県鯖江市において現地調査を行わせて頂いたことで私たちは多くの住民の方々からお話を聞くことができた。また、それによって鯖江独自の魅力を多々発見することができたように思う。メガネ産業はもちろんのこと、漆器や、織物などその文化や産業は多彩であった。何より学生・よそものを快く受け入れて頂ける風土はとても素敵な魅力のように感じた。しかし、今後の発展に困難を感じている分野や広い鯖江の中で魅力はあれど未だに定住人口の増加策にまで行きつけていない地域もあるように感じたため、その中で私たち学生が以上のような魅力を感じ、それを提示したことが今後の鯖江市・河和田地区の発展の一助となっていれば幸いに思う。そして最後に調査、取材の際に大変なご尽力を頂いた牧野市長をはじめとして、関係者の皆さま、私たちのチームを担当頂いた今宮さん、住民の方々には深く感謝申し上げます、結びとさせていただきます。

6. 参考資料

- ・鯖江市 HP : (<http://www.city.sabae.fukui.jp/pageview.html?id=1561>)
- ・日本全国子ども郷土料理サミット : (<http://www.rdpc.or.jp/kyoudoryouri100/?p=1616>)
- ・漆のファッション : (<http://kokontrip.exblog.jp/22829710/>)
- ・河和田アートキャンプ : (<http://www.aai-b.jp/ac/>)
- ・河和田くらしの祭典 : (<http://tsugilab.com/works/kawada-saiten.html>)
- ・AR マーカー : (<http://www.tv-asahi.co.jp/tokyopreciousdating/game/>)
(<http://e-words.jp/w/AR%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%AB%E3%83%BC.html>)
- ・鯖江市 Wikipedia
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AF%96%E6%B1%9F%E5%B8%82>)